

中華民國の国名を台湾に変え、新憲法を制定しよう

台湾の国家正常化を進めよう！

台湾元総統
李登輝



記者会見に臨んだ李登輝元総統
(2月28日)

今年二月二十八日、台湾の地上波テレビ放送局「民間全民電視公司」（略称：民視）董事長の郭倍宏氏は、政治団体として「喜樂島聯盟」を今年四月七日に発足させ、来年四月六日には独立を目指した公民（住民）投票を実施すると記者会見で発表した。

記者会見には、賛同発起人として李登輝元総統や呂秀蓮元副総統などが出席。李氏は国号を台湾に変え、新憲法を制定することで台湾の国家正常化を進めるべきと力説。公の場で、これほどはっきりと国名変更に言及するのは珍しい。その全発言を紹介したい。（本誌編集部）

発起人の郭倍宏・董事長、呂秀蓮・元副総統、彭明敏・元資政、そして会場にお集まりの皆さま、おはようございます。本日、郭董事長が発起人となって設立された「喜樂島公投聯盟」発足記者会見にご招待いただき大変うれしく思っております。

ます。私はここに、最大限の支持と賛同を表明するものであります。

台湾が国家の正常化を進めるのであれば、その道のりは長く、すべての台湾人がともに努力をしなければなりません。私が総統在任中には、動員戡乱時期臨時条款の撤廃や万年議員の改選、総統直接選挙の実現をはじめ、多くの民主改革を実現させたと自負しておりますが、しかし、過去の歴史によって残された矛盾が、未だ解決されないうままになっております。それが私にとつてもつとも残念なことでありました。

皆さまもご承知の通り、台湾にとつて最大の脅威は中国であり、中国がもたらすものであります。中国はこれまで台湾を中国の一部分だと一貫して主張しておりますが、一九四九年の中華人民共和国建国以来、中国は一度たりとも台湾を統治したことはありません。

しかも、台湾は一九九一年の憲法改正以後、主権の正当性

が明確にされております。台湾の主権は二三〇〇万人の人々の直接投票によって授権され、中国の人々とはまったくの無関係であります。つまり、台湾がひとつの国家であることは明確な事実なのです。

台湾と中国との関係は、一種の特殊な状態ではあるものの国家と国家の関係であります。こうしたことは、一九九九年に「ドイツの声」によるインタビューを受けた際、明確に述べております。こうした台湾が直面している特殊な状態については、正名と新しい憲法制定によって解決しなければなりません。

これまで、国民党率いる中華民国体制のもと、長期にわたる現実が糊塗された状態が続いてきました。それによって台湾の人々のアイデンティティは誤導され、ここに特殊な状態が惹起するに至ったのです。

私は総統在任中に「中華民国は台湾にあり」と申し上げたことがあります。これこそが現実を見据えた態度でありましょう。願わくば、こうした現実在即したやり方で、私たちは民主化、本土化を推し進めるとともに、一歩ずつ台湾人の国家意識を取り戻し、正名および新憲法制定の目標を成し遂げようではありませんか。

ひまわり学生運動の高まりと、選挙で相次いで敗れた国民党が凋落した今こそ、私たちは立ち上がり、目標を成し遂げ

るべく行動を開始する秋ときなのです。

現在の憲法は、そもそも中華民国ために制定された憲法であり、台湾とは関係がありません。私の総統時代、憲法改正を六回行いましたが、それでもなおところどころに歪みが生じております。そのためにも、もっとも必要とされているのが速やかな台湾の新憲法なのです。

私は本日、この記者会見に出席することにより、この公民投票運動への賛同を具体的な行動で示しました。公民投票は国民が持つ最強の武器であります。公民投票により、正名および新憲法制定の目標を推し進め、台湾を正常な国家にしようではありませんか。そして台湾の名義によって国際組織に加盟し、国際社会へと飛び出そうではありませんか。

私は九十六歳となりましたが、それでもなお皆さんとともに立ち上がり、目標に向けて努力したいと願っております。先日、陳水扁総統とも話し合いました。いまや私たちは一切の偏見を捨て去り、団結できるあらゆる力を結集して国民と国家のため、目標へ向かって努力していくべきなのだ。

台湾の名義で世界へと躍り出し、台湾を偉大な国家として知らしめようではありませんか。

最後になりますが、台湾に天の加護がありますこと、そして会場にいらつしやる皆さまのご健勝をお祈りしたいと思います。ありがとうございます。（翻訳・本会台北事務所）